

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0471200584		
法人名	社会福祉法人 登米市社会福祉協議会		
事業所名	認知症高齢者グループホームほほえみ		
所在地	宮城県登米市石越町南郷字新石沢前47-3		
自己評価作成日	令和 2年 9月29日		

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会		
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階		
訪問調査日	令和 2年10月19日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

田園が広がる自然豊かな所にあり、天気の良い日にはグループホームの周りを散歩したり日向ぼっこをしたりと飲ん彫りした毎日を送っております。また、春になれば目の前の桜並木が満開となり素晴らしい風景が広がります。同じ敷地内に特養「風の路」やデイサービスがありお互いに交流を行っております。市の委託事業である「家族介護支援レスパイト事業」も行っており市とも良好な関係を築いております。現在はコロナの関係で地域のお祭り等もなくなり出かけることはなくなりましたが、お祭り等が開催されていた時には出かけて地域との交流も行ってまいりました。自宅の生活の延長で生活して頂けるように職員も努力をし入居者の方も職員も毎日笑顔で過ごせるグループホームを目指しております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

登米市石越地区の田園地帯を一望できる、小高い丘の自然に恵まれた静かな環境にある。敷地内に、同法人が運営する特養・デイサービスが隣接し、イベント開催と職員同士の交流がある。市の委託事業「家族支援レスパイト事業」に取り組み今年5名を受け入れた。新型コロナウイルス感染症の影響で地域の行事もなく、三密を避け、コロナ対策を行っている。夏の風物詩「パベキュー」をノンアルコールで乾杯して、「美味しい」と大喜びだった。職員も笑顔を大切に、日々寄り添うケアを実施し、安全で安心なホームを目指している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 ○ 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている ○ 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで身体や精神の状態に応じて満足出来る生活を送っている。 (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、やりがいと責任を持って働いている。 (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員2/3くらいが 3. 職員1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者の意思を出来る限り尊重し、外出等の支援をする努力をしている。 (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、医療機関との連携や、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

2.自己評価および外部評価結果(詳細)(事業所名 認知症高齢者グループホームほほえみ)「ユニット名

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	住み慣れた地域で自宅にいる時に近い生活を送って頂くためには、毎日を笑顔で暮らして頂きたいと思い「私たちは一人ひとりの生き方を尊重し、共に笑顔で寄り添う事を大切にします」を理念とし、実践しております。	今年5月、職員で話し合い作成した理念をホールに掲示し、職員で共有している。入居者の思いを大切に生活や心に寄り添ったケアを志し、行事や日々の暮らしの中で、笑顔で過ごせるように取り組んでいる。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	GHでの敬老会や地域運営推進会議に地域の方々のご参加を頂いたり、入居前に生活していた地域の敬老会等に参加させて頂いております。また、地域の方からは野菜の苗も頂き畑で育てています。	地区の敬老会に出席し、地域の知り合いの方々と交流した。中学生が来訪し、一緒にカルタ取りを楽しんだ。ホームの敬老会には、ノンアルコールで乾杯し地域の方々、ボランティア等が参加し楽しい時間を過ごした。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	「介護110番」の窓口を設けており相談を受け付けております。要望があれば「認知症」についての出前講座も行っております。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年6回開催している会議では、入居者のご家族代表の方、地域の区長・民生委員、福祉事務所、地域包括支援センターのご意見や要望を頂き日々のサービス向上に努めています。	行事や宮城県感染症発生動向調査情報について報告している。台風19号等の災害時の避難場所や新型コロナウイルス感染による面会制限について、意見交換している。区長より祭りの声掛けがあり参加した。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域運営推進会議を利用し相談を行った。市からの委託事業「介護家族支援レスパイト事業」の受け入れを行う等、良好な協力関係を築いております。	介護認定更新や事故報告をしている。市の委託事業「介護家族支援レスパイト事業」に今年5名受け入れた。インフルエンザ等の感染症の対策についてや身近な感染症とその予防についての講習会に参加している。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関や居室、居間の施錠は防犯のため夜間のみとし、昼間は全ての窓や入り口を開錠しております。ベットの柵等の身体拘束も行っておりません。同じ敷地内のデイサービスや支所、特養の見守りの協力もあります。	内部研修会で、禁止の対象となる行動を制限したり、強い口調やスピーチロックになるような言動を理解し、拘束のないケアに努めている。荷物をもって玄関に来る方は、一緒に散歩やドライブに行き支援している。		
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ケアカンファレンスやミーティング時に自分たちの日々のケアの見直しを行い、身体的にも精神的にも虐待が行われていないことを確認しております。	内部で心理的・性的・経済的・ネグレクト虐待等の勉強会を実施している。職員の精神的負担が虐待発生の大きな要因となることを理解し、何かあった場合、衛生委員会で医師に相談している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在該当される方はいらっしゃいませんが、まもり-ぶを利用されている方が1名おります。まもり-ぶの担当者と密に連携を取っております。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者、計画作成担当者の2人で対応しており、何度か自宅に伺い入居予定者の方やご家族に対して十分説明を行い、理解・納得をして頂いております。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	地域運営推進会議に家族代表の方も参加され意見や要望を頂いております。また、ご家族が面会等で来所された時には情報交換を行い、意見や要望を伺うようにしております。	面会時等職員から声掛けし、家族から何でも相談しやすい雰囲気を作っている。「元気でみんなと楽しく過ごしてほしい」との要望で、他の入居者とコミュニケーションを図り、散歩や行事への参加を取り入れた。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月ケアカンファレンスやミーティングを行い職員から意見や提案を聞く機会を設けている。この時の意見等は本部にも報告している。	いつでも意見や提案を管理者に伝えられる信頼関係ができています。吸引の強い掃除機の購入や古くなった居室のエアコンの買い替え等が反映された。資格取得の支援や子育て中の職員のシフトの配慮等行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者全体会議等会議に会長も参加され私たちの意見を聞いて頂いております。また、時々全事業所を巡視され職員から直接意見を聞いて下さいます。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修会や講習会がある時には声掛けを行い参加を進めております。		
14	(9)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	宮城県のGH協や登米市の介護保険事業者連絡協議会に入会しており、他の入居施設との交流や情報交換の機会があり、自分たちのサービスの質の向上に繋げております。	県、市の介護保険事業者連絡協議会の各種研修会に出席し、交流やネットワークを広げる機会となっている。情報交換した内容は、サービスの質の向上に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に何度か自宅に伺いご本人との話し合いを多く持ち不安を解消するように心がけております。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に何度か自宅に伺いご家族との話し合いを多く持ち不安を解消するように心がけております。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前にご本人、ご家族から要望等を聞きGHで出来る事と出来ない事の話し合いを行います。ご本人にとってより良いケアを行うため他のサービスや社協内の他施設との協力体制をとっております。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者の方々も職員も同じ家族の一員と考え入居者の方々にも出来る範囲での役割(茶碗ふき、洗濯物たみ、掃除、就寝準備等)を持っていただいております。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族にGHの行事に参加して頂き、家族での外出を支援しております。また、入居者の日々の様子を毎月お便りでご家族にお知らせしております。		
20	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前に住んでいた地域の行事に参加したりGHの行事に地域の方をお呼びすることや地域の方や友人との外出や面会等により交流が続くように支援しております。	釣り仲間と海を見に出かける方や地域の敬老会や祭りに参加する方、息子夫婦と温泉旅行に行く方等支援している。居室で仲良し同士お茶を飲んだり、お喋りしているうちに自分のベッドで寝てしまう方もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者の方一人ひとりの趣味や興味のあることを把握し、耳の遠い方には職員が間に入りお互いの意思疎通がうまくいくように支援しております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の施設への入所のために退所される方のご家族にはいつでも相談して下さいとお話しし、入院で退所される方については何度か病院に行き様子を見てご家族と話をさせて頂いております。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個別にご本人の希望や要望を聞いたり、聞き取りが困難な場合には日々の状態を観察したり自宅での生活の様子をケアプランに反映させております。	農家に嫁に来て、朝から夜まで畑仕事をし苦労したこと等傾聴している。毎日日記を書いている方のノートやペンを一緒に買いに行った。把握困難な方は、立ち上がってウロウロした時にトイレに案内している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前には本人や家族から情報を収集し、入居後には個別に話を聞く機会を多く持ち、これまでの生活環境や暮らし方の把握に努めております。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの一日の過ごし方観察し、記録に残し全職員で情報を共有し現状の把握に努めております。		
26	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人、ご家族、主治医の意見を聞き、全職員で話し合いケアプランを作成し3か月に1度の見直しも行っている。	本人、家族の思いを聞くほかに、かかりつけ医の指示を参考に作成している。腎臓病の方は塩分を控え、野菜は加熱することや便秘の方には「医師の処方下剤を飲む」をケアプランに反映させた。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の状態を個別のケース記録や日誌に凝録し全職員で情報を共有することにより、日々の介護や介護計画の見直しに活かしております。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	同じ敷地内にデイサービスや特養があるためにお互い交流を行いサービスの多様化に取り組んでおります。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の方にボランティア(傾聴、畑仕事)に来ていただいたり、地域の行事(敬老会、お祭り等)に参加しております。		
30	(13)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	近くの診療所が協力医になっており口腔ケアは歯科医に来ていただき行っております。ご本人の希望で入居前からのかかりつけ医に通院されている方については情報の提供を行っております。	かかりつけ医の受診は、家族が対応し、協力医は、職員が同行し変化があったとき家族に報告している。結果はケース記録に記載し、職員で共有している。月2回、歯科医と歯科衛生士が来訪している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	GHIに看護職員は勤務しておりませんが、隣接している特養やデイサービスに看護師が常勤しているので入居者の方に何かあった時には直ぐに相談し病院受診等適切な看護を受けられるように支援しております。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者の方が入院した際には情報を病院に提供し、入院中は出来る限り面会に行き、その都度病院関係者の方との情報交換を行っております。		
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	協力医との24時間医療連携が困難な為に看取りは行っておりません。入居者の方が重度化した場合にはご本人、ご家族と段階的に話し合いを行い、特養、老健への入所、医療機関への入院を支援しております。	入居時に、「重度化した場合における対応に係る同意書」に本人・家族の同意を得ている。重度化した場合は、協力医との連携が困難のため、家族と話し合い、特養への入所や医療機関への入院を支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時マニュアルは全職員が理解しており、訓練も定期的に行っております。		
35	(15)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を行っております。昼間だけでなく夜間想定も火災、地震、水害等を想定し行っております。	年4回、火災・地震(夜間想定を含む)避難訓練を実施した。避難経路の確認や課題、対策を検討した図上訓練を実施した。近隣住民等の参加はなかったが、区長、民生委員に災害時の協力を得ている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(16)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者の方個々に合わせた声掛け(苗字や名前にさん付けで呼んでいる)を行い、排泄時、入浴時には特にその方の誇りやプライバシーを損ねないように気を付けて対応しております。	名前はさん付けで呼び掛けている。「課長さん」と呼ぶと反応が良い方が居る。失禁時は、耳元で声掛けするなど、周囲の方々に気づかれないように配慮している。毎日モーニングコーヒーを飲む方もいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者の方と職員の間で信頼関係を築く努力を日々行っており、入居者の方がどんなことでも話せる雰囲気づくりを心掛けております。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者の方個々の生活のリズムを把握し、その方のペースに合わせ穏やかにのんびりと生活して頂いております。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身持ち良く毎日を過ごして頂くために、朝の洋服選びや整容のお手伝いを行い、季節に合った身だしなみやおしゃれが出来るように支援しております。		
40	(17)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	特養の栄養士が作成した献立を参考に入居者の方々の希望を取り入れ食事を提供しております。食事の準備や後片づけも出来る範囲で一緒に行っております。	食材は、入居者と買いに行ったり、食事の準備、後片付け等一緒にするなど、食事の楽しさを支援している。職員も食事の介助をしながら一緒に食べている。広場でコロナ対策を行いつつバーベキューを行った。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者の方個々に食事量、水分量を把握し十分な栄養や水分が摂取できるように支援しています。飲み物に関しては、お茶、コーヒー、ジュース、白湯等希望の飲み物を提供しております。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨きや入れ歯の洗浄は見守りの方、介助の方とご本人の状態に合わせてケアを行っております。また、歯科医による口腔ケアも月2回行っております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(18)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を作成し個々の排泄パターンを把握し、しょくいんが声掛けや誘導を行い自立に向けた支援を行っております。その結果失禁回数が減りパットを外された方が1名おります。	自立している方4名、他の方は個々の排泄パターンやサイン等を把握し、声掛けや歩行介助等でトイレ誘導している。他施設から入居の方でリハパンだった方をトイレに誘導し、布パンツに改善した方もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の予防のために朝食時には麦ごはんを牛乳等の乳製品は毎日摂取して頂いております。また、適度な運動や水分摂取を心がけております。		
45	(19)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	入浴日や時間は入居者の方の希望を聞いて行っております。入浴を拒否される方にも声掛けや説得で納得して頂いてから入浴して頂けるように支援を行っております。	一番風呂や熱め、入浴剤等個々の希望に沿って、週2～3回の入浴である。拒む方は、無理強いしないで、声掛けを工夫したり清拭等で対応している。職員とお喋りをしたり、歌を歌ったり寛いで入浴している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝、起床時間はご本人の意思に任せています。お昼寝もご本人の習慣として定着している方のみ行っております。就寝時にはエアコン等で居室内の温度調節を行い気持ちよく休めるように支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は服薬管理表で個々の薬について把握しており、服薬時には手渡しや介助で飲み込むまでの見守りを行っております。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の趣味(パズル、散歩、裁縫等)や食事の準備や後片づけ、掃除等を行われたり、居室に好きなお菓子や飲み物を置かれ(要冷蔵は預かっています)お好きな時に食べられるように支援しております。		
49	(20)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個々の希望に沿って散歩やドライブ等に外出しております。家族との外出時には車いすの貸し出し等支援を行っております。	天気の良い日は、ホーム周辺の散歩や東屋でお茶を飲んだりしている。若柳への初詣や南方の紫陽花、米山の桜、長沼の船に乗っての蓮見物等出かけている。スーパーの買い物等、個別の希望にも応じている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族からお小遣いをお預かりしており、外出や買い物時には、ご本人がお金を持って買い物ができるように支援しております。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族に電話をかけたい時には、自分でかけられる方には電話をお貸しし、電話番号を押せない方にはこちらで番号を押して受話器を手渡ししております。手紙がと届いた時には直ぐにお渡ししております。		
52	(21)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間は特にこまめに清掃を行い広い窓から光や風を適度に取り入れ、エアコンでの温度調節もこまめに行っております。また、玄関や居間は季節を感じられるよう飾り付けを行っております。	玄関にハロウィンのタペストリーや飾り物の柿や南瓜など季節を感じる物を置いている。居間には、入居者の作った手芸の手毬や紅葉の造花を飾り、テレビを見たり、レクリエーション活動等をしたりして過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間での席は気の合った方々で同じテーブルに座って頂き、玄関ホールや外にはベンチを置き、気の合った方と会話をしたり一人で過ごしたいときにはひとりで過ごせる工夫をしたおります。		
54	(22)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時には使い慣れた家具等の持ち込みをお願いし、居室にカレンダーや家族の写真等を飾り自宅に近い空間作りを行っております。	座椅子、ベット、衣装ケース等持ち込んでいます。家族の写真や自作の塗り絵を飾っている。人形の縫いぐるみを枕元に置いている。本を読む、日記を書く、携帯電話で家族に電話する等の習慣を大切に過ごしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部はバリアフリーで歩きやすいように廊下には手すりも設置されています。トイレの表示は大きくし居室の前には名札を下げる等分かりやすい工夫をしております。		